



西漢南越王博物館

珍品圖鑑

西漢南越王博物館編集
文物出版社



画 策： 李林娜 賴婉明 吳淩雲 王 芳
主 編： 李林娜
執筆 者： 吳淩雲 唐貞全 賈軍士 曹 穗
 劉金順 向晉艷
翻 訳： 劉金挙 張炳興
装丁デザイン： 蔡淑蓉
日本語校正： 大田千波留
印刷責任者： 陸 联
編集責任者： 肖大桂

图书在版编目 (CIP) 数据

西汉南越王博物馆珍品图录/西汉南越王博物馆编.
北京: 文物出版社, 2007.7
ISBN 978-7-5010-2030-0

I. 西... II. 西... III. 南越(古族名)—汉墓—
出土文物—广州市—图录 IV.K873.651

中国版本图书馆CIP数据核字(2006)第127925号

西漢南越王博物館珍品圖鑑

西漢南越王博物館編集

文物出版社出版發行(北京五四町29番号)

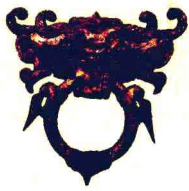
<http://www.wenwu.com>

E-mail: web@wenwu.com

深圳雅昌彩色印刷会社

2007年7月第一版 2007年7月第一回印

ISBN 978-7-5010-2030-0 定價: 180元



目録

前書	2
博物館概略	4
南越王趙昧の墓跡	12
南越王墓の出土品	28
文帝の璽	30
主室の宝物	38
墓内殉葬者	72
王室倉庫の宝物	84
宴樂用具	110
楊永徳夫妻寄贈の陶枕	136
付録	158
南越王家系図	158
南越国大事年表	159



前書

悠久の歴史を持つ中華文明の支流をなす嶺南文明は、南国特有の山水や文化風俗を受け継いだものとして、独特な特徴を有している。

嶺南地方(大体今の広東省と広西壮族自治区)は秦代まで未開地と呼ばれていたほど立ち遅れていたが、その後、この地は秦の始皇帝によって統一された。また、南越王の趙佗は建国後、「百越融和」の政策を実施し、漢民族と越族の融和を促進して、嶺南文明の発展と社会の進歩を推し進めた。

ここ20年における考古学の重大発見によって、嶺南地方の歴史とその発展が明らかにされている。特に、1983年、広州の象崗山にある南越国二代目の王、趙昧の墓の発見は、20世紀80年代の中国考古学史上の五大発見の一つとして、考古学界に讃えられている。墓から出土した宝物は、10434件もあり、いずれも非常に価値の高いものである。その中でも、「文帝行璽」という金印は出土した帝王の璽の中で、最も年代の古い印である。また、主人が着用してい

た「絲縷玉衣」は今まで発見された玉衣の中で、最も年代が古く、その上、最も完全に近い形で残っているものである。それから、青玉でできた角の形をした「青玉角杯」と、竜と鳳の図案の「竜鳳紋重環玉佩」も珍しいものである。また、漢族、越族の文化的特徴を兼ね備えた各種の青銅器も貴重な品である。これらの出土品は、二千年前の嶺南地方の政治、経済、文化の発展様相を反映し、嶺南地方の開発史、広州の都市建設の歴史及び秦代、漢代の歴史を研究するのに重要な実物資料となっている。南越王墓の発見は、南越国の歴史の研究ブームを巻き起こしたばかりでなく、南にあるこの未開地とされていた地域が、実は当時すでに開化していたと、改めて認識させるようになった。

保存状態が非常によく、しかも、おびただしい量の、価値の高い遺物が出土している南越王墓は、当時を完全に再現し、まるで生きた南越国社会を描いた絵のようであり、広州市の悠久たる歴史と燦然たる文化をさらに明らかにし

ている。南越王墓の発見と発掘は、嶺南地方の考古学において記念すべきことの一つである。1988年、南越王墓跡に建てられた「西漢南越王博物館」は、目的に応じて合理的に配置され、厳選された材料を使用し、独特なデザインと工夫された装飾がなされている。これは南越の古代文明の歴史的、文化的情報を発信しているだけではなく、現代の嶺南建築の特徴と発展をも充分に表している。したがって、わが国において、文化財の保護、利用における手本の一つであるとともに、広州の文化的施設においても記念すべきものである。

「西漢南越王博物館」は中国の有名な遺跡上に建てられた博物館で、完成からわずか二十年で、既にのべ300万人の観光客を迎え入れ、江澤民、喬石、李瑞環、朱榕基をはじめとする中国、及び世界各国の元首や重役も多く視察や見学に訪れている。1991年10月15日、当時の国務院総理であった李鵬は当館に「嶺南文化之光」という題字を記して

いる。1991年11月6日、フランスの元総理シラクは「中国の古い文明を展示して下さったこの博物館に、敬服の意を表する」と題字を記し、1992年9月23日、日本の元首相海部俊樹は夫人とともに見学した後、「感動歴史」と題字を記している。国内外の観光客の歴史に対する憧憬を駆り立て、「西漢南越王博物館」の独特な魅力をよりいっそう示し、嶺南文明を受け継ぎ、それを踏まえ、さらに発展させるために、当館は「価値のさらなる向上」という原則に基づき、館内の陳列順序に従い、南越王墓の出土遺物と、楊永徳夫妻寄贈の陶枕などの珍品の解説を、中国語、英語、日本語、フランス語、ドイツ語及びスペイン語バージョンの図鑑にすることにした。

編者

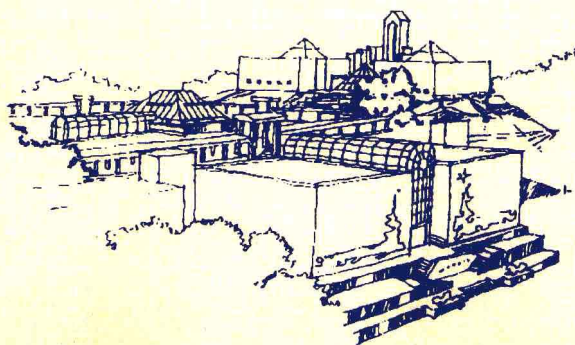
二〇〇七年七月



南越王博物館 概略

西漢(前漢)南越王博物館は古墳の跡に建てられた博物館で、1988年に一般公開され、敷地面積1.4647万平方メートル、建て面積17458平方メートルである。この博物館は現在11465件の出土遺物を収蔵している。「南越王墓」の遺構をそのまま保存、公開し、墓室より出土した遺物を展示している。このほか、楊永徳夫妻寄贈の「陶枕」も多数陳列室に展示している。また、不定期の特別展示も行なっている。

この博物館は、南越王墓を中心にし、丘とその傾斜という地形を巧みに利用して建てられている。内部には、「総合陳列ビル」、「古墳保護区」、「南越王墓出土品(遺物)陳列ビル」というまったく異なった三つの空間を、山に沿うように配置しているので、次第に高くなっていく渾然一体化した一つの建物に見える。古代文化の精髓を生かすとともに、現代的風格も取り入れたこの博物館は、目的に応じた合理的な配置と、ユニークなデザインで、造型、設計ともに「嶺南」の現代建築の代表の一つとなり、「20世紀中国經典建築」賞を含め、国内外で六つの賞を受賞している。

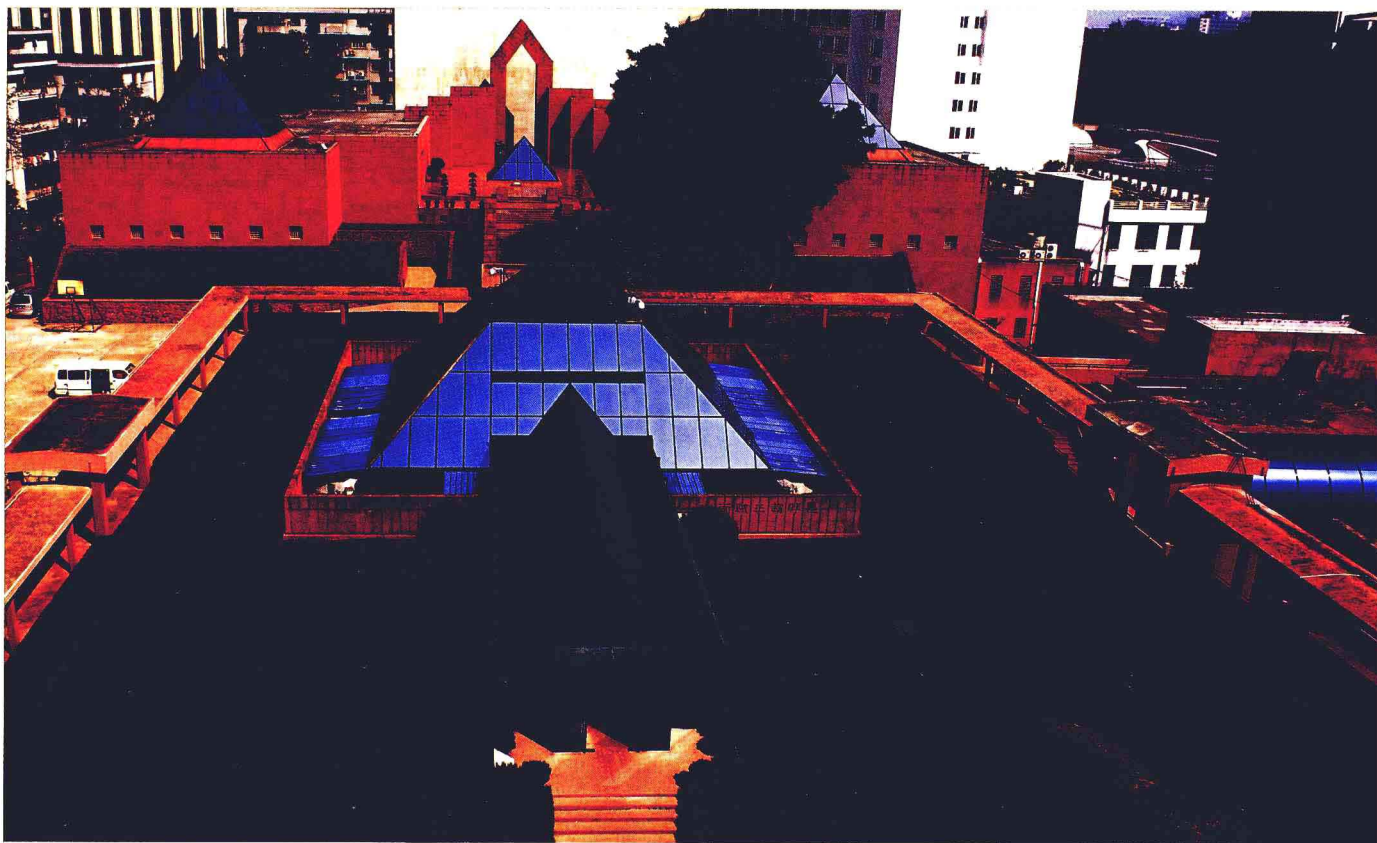


博物館正面

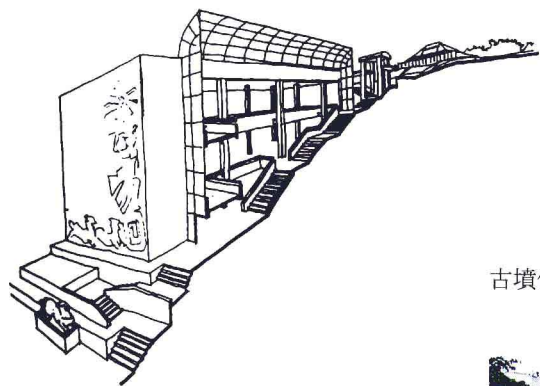


西漢南越王博物館





博物館鳥瞰図



古墳保護区

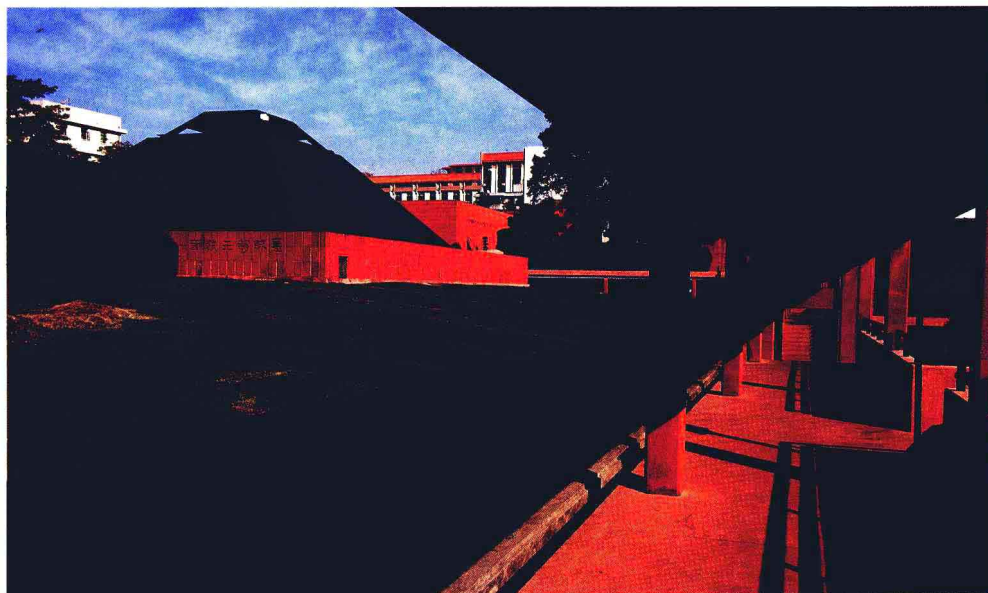




南越王墓出土品陳列ビル



回廊の一角

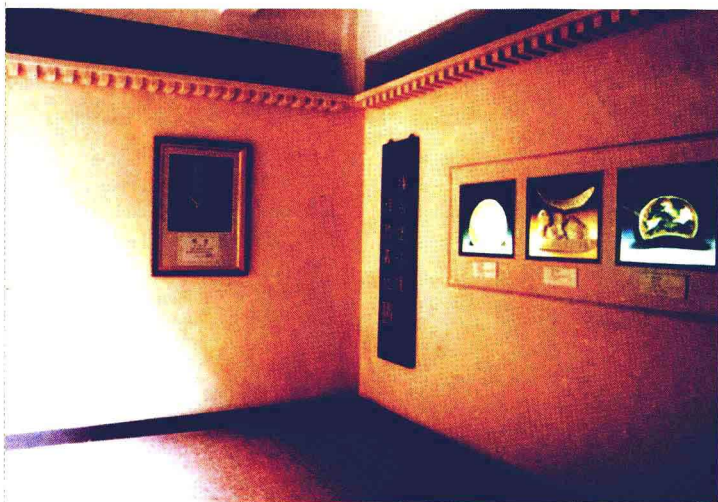




南越王墓出土品陳列ビル陳列室の一角



楊永徳夫妻寄贈の「陶枕」陳列展示室

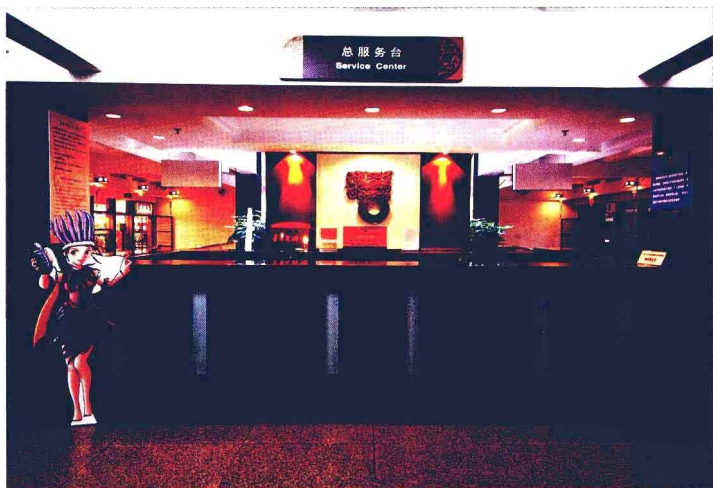


特別展陳列室





ビデオルーム



受付

VIPルーム

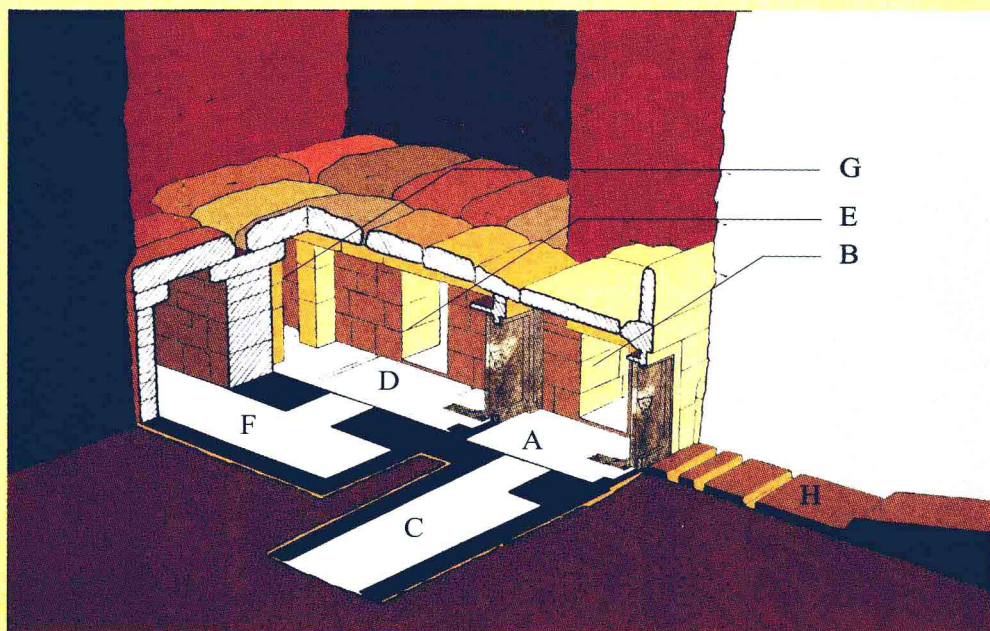
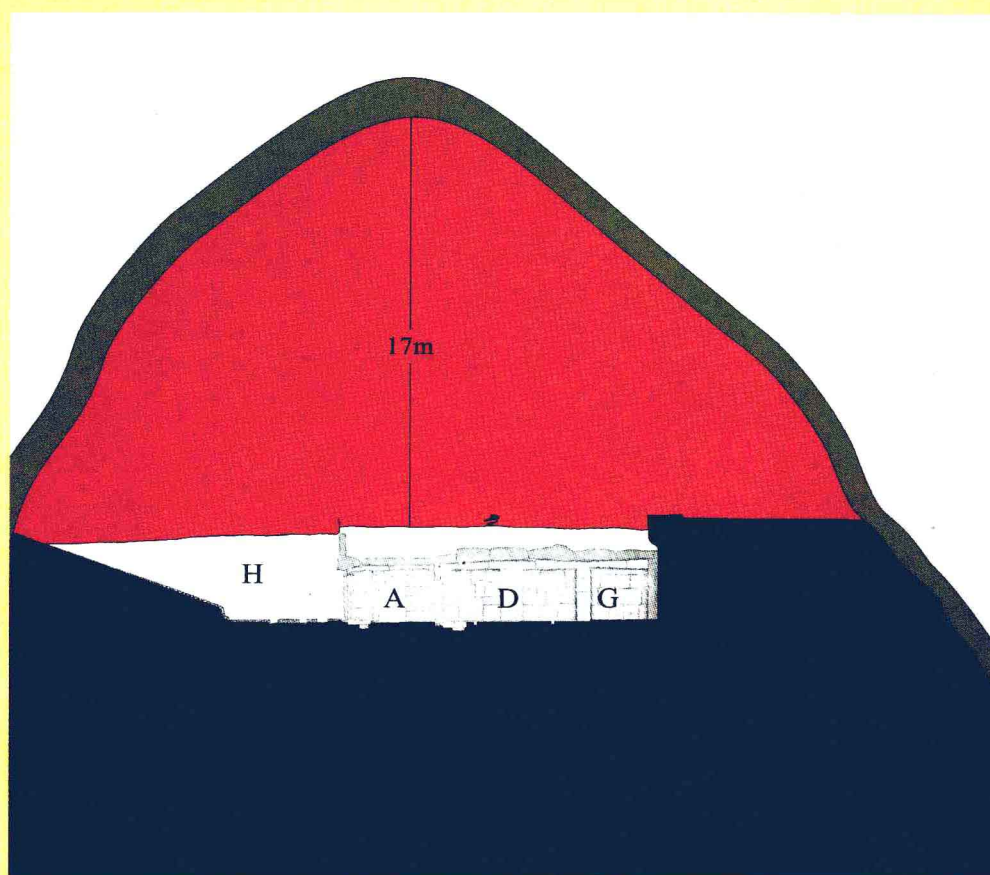




南越王趙昧 の墓跡

南越王墓は山をベースにして、「前朝後寝」（前部分は政事を司り、後部分は就寝するところであるという中国の伝統的な宮殿の配置制度）に則って掘削された陵墓である。墓室は象崗山という山の、地面より深さ20メートルの山腹に拵えられている。墓坑は竪穴と横穴で構築されており、平面図は「土」という漢字の形をしている。その墓室は南北幅が10.85メートル、東西の長さは12.5メートルで、建て面積は約100平方メートルである。墓内は前後二つの部分に分けられ、前方部分は前室を中軸に、両側に東耳室、西耳室があり、後方部分は主室を中心に、両側に東側室、西側室、そして後部に貯蔵室があり、あわせて7室がある。この陵墓は盗掘された痕跡がなく、内部から15人の殉葬者と10434件の貴重な遺物が発見されている。陵墓建築に使用された750個の赤色砂岩はすべて広州から20海里も離れた蓮花山という山から水路を通じてはるばると運ばれてきたもので、そこから工事がいかに大きいものであったかが窺えよう。南越王墓は嶺南地域で発見された最大規模の遺跡であり、豊富な副葬品を誇り、彩色壁画を有する石室墓で、1996年に国家重点保護文化財に指定されている。

象岡山及び墓室所在地の見取り図



墓室断面図